

## 富士北麓カラマツ林における CO<sub>2</sub> 収支の長期観測 Long-term observation of CO<sub>2</sub> flux over a larch forest in northern foot of Mt. Fuji

高橋 善幸<sup>1\*</sup>; 三枝 信子<sup>1</sup>; 井手 玲子<sup>1</sup>; 平田 竜一<sup>1</sup>  
TAKAHASHI, Yoshiyuki<sup>1\*</sup>; SAIGUSA, Nobuko<sup>1</sup>; IDE, Reiko<sup>1</sup>; HIRATA, Ryuichi<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 国立環境研究所地球環境研究センター

<sup>1</sup>Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies

落葉針葉樹林であるカラマツ林は気候変動による脆弱性が高いと予想されるユーラシア大陸北東部を代表する植生である。カラマツ林の展葉期および落葉期は温度変動の影響を強く受けるため、気候変動による炭素収支へのフィードバックを検証することは重要である。カラマツ林の炭素収支の長期的及び短期的な環境因子の変動への応答特性を定量的に評価するため国立環境研究所は 2006 年に富士北麓のカラマツ人工林に富士北麓フラックス観測サイトを整備し、長期的な観測を開始した。CO<sub>2</sub>/H<sub>2</sub>O フラックスと炭素収支に関連する気象・微気象要素に関してこれまでに 9 年間の長期観測データを集積し、今後 10 年以上の観測の継続を予定している。本発表では、これまでの観測結果により得られた、年による炭素交換量と季節変化パターンの違いと年毎の環境因子との関連性についての解析結果を示す予定である。

キーワード: 二酸化炭素, フラックス, 森林生態系, 気候変動, 長期観測, 微気象

Keywords: carbon dioxide, flux, forest ecosystem, climate change, long-term monitoring, micrometeorology